

湯沢市

まち・ひと・しごと

創生総合戦略

「懐かしい未来」への設計図



この総合戦略は、湯沢市の人口減少を抑制し、地域活性化を目指す「地方創生」の実現に向けた具体的戦略をとりまとめたものです。

人口減少を「自分の問題」と認識し、
発展した時代と、昔ながらの温かい暮らしの調和を目指し
思いを一つに取り組んでいきましょう。



平成27年度～平成31年度

戦略1

「民」の力とゆざわの強みの融合による 新規就労創出と経済活性化

クラウドソーシングの導入をはじめ、伝統産業や農林業等、ゆざわの特色ある分野を強化することで、「しごと」の機会を増やし、地域経済の活性化を目指します！



ゆざわジオパーク
キャラクター
「しず小町」

目標

●新規就労者数 212人(H26) → 413人(H31)

●納税義務者1人あたりの課税対象所得 2,322,040円(H25) → 県平均以上(H31)
※H25県平均 2,546,800円

チャレンジ・パッケージ1

ICTを活用した「ゆざわ発新しい働き方」

時間や場所にとらわれない新しい働き方として、在宅ワーカーの育成を推進するとともに、クラウドソーシングを活用して事業力強化を目指す企業を支援します。

- ・在宅ワーカーの育成
- ・市内企業に対するクラウドソーシング活用支援 など

チャレンジ・パッケージ2

伝統的地場産業を核とした 「ゆざわブランド」の確立と域外「まるごと！」PR

稲庭うどんや清酒、川連漆器等、ゆざわが誇る伝統的地場産業について「ゆざわブランド」としてPRを強化するとともに、海外進出や新商品開発を支援します。

- ・海外への販路開拓支援
- ・新商品開発や首都圏等でのイベントへの出展支援 など

チャレンジ・パッケージ3

「集約化」と「つながる力」を活かした 農林業の実力強化

農業従事者の高齢化や後継者不足に対応し、集約化による効率的な農業経営の実現と、都市部との交流による担い手の確保を図ります。また、地域産材の活用を促進し、林業の振興と森林の健全化を図ります。

- ・特色ある作物栽培の推進
- ・地域産材の活用促進 など

チャレンジ・パッケージ4

「萌芽^{ほろが}から成熟まで」 切れ目のないベンチャー支援

スタートアップから起業後の伴走まで、市内での新規起業等を促進・支援するとともに、首都圏等からの起業家の誘致を行い、雇用創出と移住の促進を図ります。

- ・創業支援計画に基づく起業支援
- ・共働オフィスの整備や新事業展開への支援 など

しず小町からのメッセージ

チャレンジ・パッケージ1の「クラウドソーシング」は、インターネット上で企業から個人に対して仕事を依頼し、仕事を請け負った個人が報酬を得ることができる仕組みです。子育てや介護などで仕事の時間に制約を受ける方にお勧めです。ぜひ挑戦してみてください！



ターゲットマーケティングと 段階的アプローチによる移住・定住推進

「ゆざわファン」を増やし、移住者の増加を目指すとともに、若い世代が郷土に対する愛着を醸成し、「将来ふるさとに帰ってきたい」という思いを育てていきます！



目標

● 転出超過数 1,594人(H22~H26) → 1,069人(5年間の累計)

チャレンジ・パッケージ1

「観光」と「ふるさと納税」を核とした ゆざわファンの拡大

魅力ある地域資源を活用し、外国人観光客の受け入れも見据えた観光地づくりを進め、ゆざわファンの増加による交流の拡大を目指します。

- ・ 近隣市町村と連携した広域的観光振興
- ・ ふるさと納税の推進 など

チャレンジ・パッケージ2

地域ぐるみの「まるごと！」受け入れ体制構築 ～お試し居住から移住へ～

雇用や住まい、地域における相談窓口の設置等、関係団体と移住推進のためのネットワークを設立するとともに、空き家の活用による移住者向け居住環境の整備等に取り組みます。

- ・ 移住推進のためのネットワークの設立
- ・ 移住者向け居住環境整備支援 など

チャレンジ・パッケージ3

ゆざわ関心層への ターゲットマーケティング & アプローチ

都会からの起業・移住希望者や農業における産地交流等、特に就業機会と一体化した移住促進に取り組みます。

- ・ UIターンによる起業家誘致
- ・ 都市部との産地交流と就農支援 など

チャレンジ・パッケージ4

「ゆざわ版CCRC」構想の実現

東京圏等に住む高齢者が地方に移り住み、多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療や介護を受けることができる仕組みであるCCRC(生涯活躍のまち)の導入に取り組みます。

- ・ ゆざわ版生涯活躍のまち基本計画(仮称)の策定

チャレンジ・パッケージ5

定住の推進～ふるさとを知る・つながる・守る～

学校や地域、企業、行政が連携し、地域資源に触れる機会や市内企業での職場見学等の機会を児童や生徒に提供し、郷土愛の醸成を図ります。

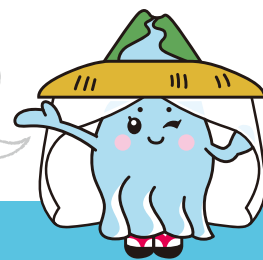
- ・ 自然や歴史等ふれあい学習の推進
- ・ 就学者向け奨学金の返還助成 など

しず小町からのメッセージ

チャレンジ・パッケージ2では、各種団体や企業、地域、行政が一つになり、移住を希望される方に仕事や住まい、観光、地域等の情報を提供していきます。

まち全体で移住される方を「おもてなし」する体制をつくっていききたいですね。

若い世代が安心して結婚・出産・子育てができるよう、職場や地域全体で祝福・支援できる環境をつくり、少子化に歯止めをかけるよう取り組みます！



目標

- 合計特殊出生率 1.45(H20~H24平均値) → 1.55(H31)
- 婚姻数 142組(H26) → 801組(5年間の累計)
- 子育て環境や支援に満足している人の割合 27.6%(H25) → 50%(H31)

チャレンジ・パッケージ1

ゆざわならでは！ 「結婚・出産・子育てに優しいまち」 プロモーション

若者が安心して結婚・出産・子育てを行うことができるよう、地域として応援する取り組みを推進し、「子育てに優しいまち」としてのブランドイメージを構築します。

- ・ライフイベントサポートフェスタの開催
- ・市役所deウェディング など

チャレンジ・パッケージ2

当事者本位・B/C(費用対効果)重視の 「まるごと！ライフイベントサポート」

結婚・出産・子育てについて、当事者のニーズに基づいた実効性の高い経済的支援を行い、理想とする子どもの数の実現を後押しします。

- ・小中学生向け医療費の給付
- ・保育料に対する助成の拡充 など

チャレンジ・パッケージ3

人とICTが紡ぎだす 地域ぐるみの子育て環境創出

人口減少に伴い地域の子育て力が弱まっているため、ICTの活用を含め、地域で子育てを共助し合える環境を整備し、「地域ぐるみの子育て」を実践します。

- ・子育てシェアリングの導入・利用促進
- ・放課後子ども教室の拡充 など



しず小町からのメッセージ

チャレンジ・パッケージ1の「市役所deウェディング」は、ご結婚されたお二人の門出を結婚式場に見立てた市役所でお祝いする事業です。まちのみんなで参加してお祝いしたいですね。

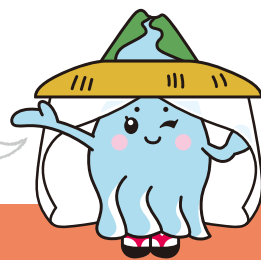
チャレンジ・パッケージ3の「子育てシェアリング」は、子育てを顔見知り同士で頼り合う、インターネットを使った仕組みです。まちのみんなで子育てできれば、ママやパパにはうれしいですね。



戦略4

地域資源を活用した 「自分ごとの誇れるまちづくり」の実践

地域資源を活かしたまちづくり、若者と女性が主役のまちづくりなど、他人事ではなく「自分ごと」のまちづくりを実践し、郷土愛を醸成します！



目標

●湯沢市に誇りや愛着を感じる市民の割合 85%(H31)

※(参考)秋田県に愛着を感じている人の割合 78.3%(H27.10県民意識調査)

チャレンジ・パッケージ1

地熱とジオの恵み、
ゆざわの文化を活かしたまちづくり
～オンリーワンからナンバーワンへ～

地熱・ジオパーク・音楽等、“ゆざわ”を特徴づける資源を活かしたまちづくりに取り組み、郷土愛の醸成とイメージの向上を目指します。

- ・ジオガイドの確保・育成
- ・「音楽のまち“ゆざわ”」の推進 など

チャレンジ・パッケージ2

「若者」と「女性」が主役の
「異色の地方都市」への挑戦

少子高齢化が進む社会に活力を取り戻すため、若者と女性の声や視点をまちづくりに最大限活かし、若者と女性の活躍の舞台を創出します。

- ・若者と女性の活躍の推進に関する条例制定
- ・若者や女性の活躍支援 など

チャレンジ・パッケージ3

人口減少時代における新たな協働/自治
～これからの一歩～

「相互理解のもと、共通の目標に向かい、役割分担する」という新たな協働、「自分たちのことは自分たちで決め、責任を持って取り組む」という新たな自治の機運を醸成し、持続可能な地域づくりに取り組みます。

- ・地域課題解決の取り組みへの支援
- ・地域で「稼ぐ」取り組みの推進 など



しず小町からのメッセージ

チャレンジ・パッケージ3では、「稼ぐ」取り組みであるコミュニティビジネスを推進します。コミュニティビジネスは、地域の皆さんのアイデアと熱意により生まれてくるものです。毎日の生活で困っていること、普段気づかない身の回りの地域資源がコミュニティビジネスに取り組むきっかけとなります。

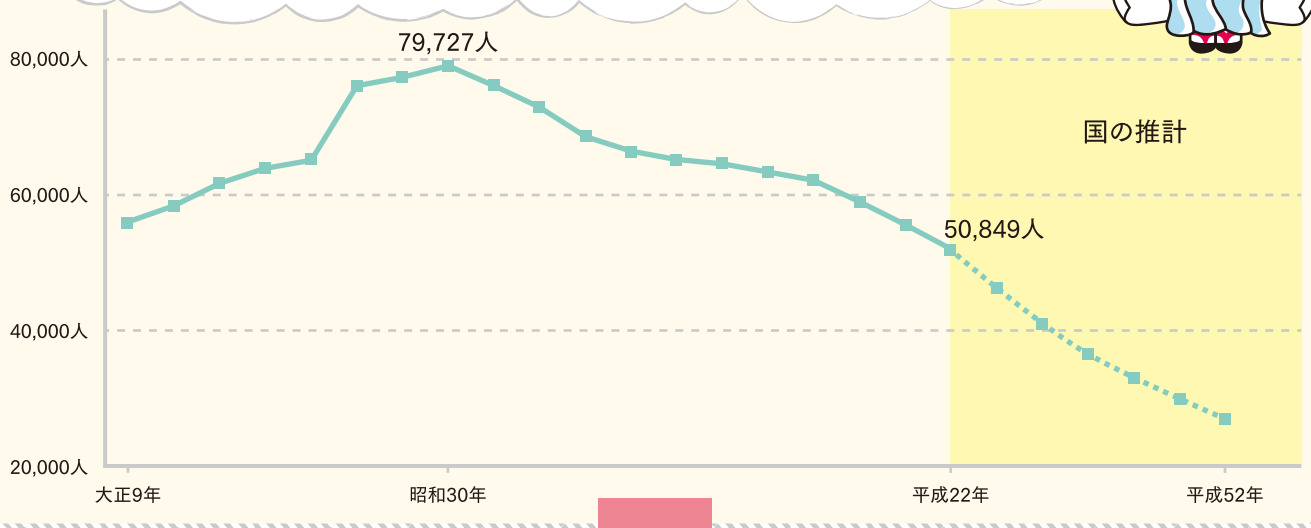


湯沢市人口 ビジョン

湯沢市人口ビジョンでは、人口動向に関する分析を行い、人口減少対策を進める上での目指すべき将来人口を定めました。

人口の推移

湯沢市の人口は昭和30年(1955年)の79,727人をピークに平成22年(2010年)の50,849人まで一貫して減少しています。国では、平成52年(2040年)に約28,000人まで減少すると推計しています。



目指すべき将来人口

人口減少対策に取り組むことで、平成52年(2040年)に31,664人の人口を確保することを目標と定めました。国の推計と比較し、約3,200人の人口減少が抑制されることになります。

